

授業科目 臨床生理学実習 II

【担当教員名】 生駒 俊和	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○		○	◎
【概要・一般目標：G10】 臨床生理学 II の知識を基礎に、神経・筋系、呼吸器系と腹部超音波検査についての技術と心得を習得する。				
【学習目標・行動目標：SBO】				
1. 脳波計を操作する。 2. 脳波の判読の流れを説明する。 3. 誘発脳電位を測定する。 4. 神経伝導速度を測定する。 5. 換気機能検査を実施する。 6. 呼吸機能検査のデータを評価する。 7. 超音波装置を操作する。 8. 超音波像を評価する。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-4	脳波検査 1 脳波の記録と整理		1	講義・実習
5-6	脳波検査 2 脳波の判読		2	講義・実習
7-10	誘発電位 記録と整理		3	講義・実習
11,12	神経伝導速度 記録と整理		4	講義・実習
13-16	呼吸機能検査 記録と整理		5,6	講義・実習
17-21	超音波検査 記録と整理		7	講義・実習
22,23	超音波検査 画像の判読		8	講義・実習
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査学講座 生理機能検査学 第 3 版	大久保 善朗 他	医歯薬出版	2010・4,830 円・2010 年 3 月
参考書	臨床工学講座 生体計測装置学	石原 謙	医歯薬出版	2010・4,830 円
その他の資料	資料配布			
【評価方法】	【履修上の留意点】			
レポート (20%)、実技試験 (20%) 定期試験 (60%)	臨床生理学 II で学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出することが単位修得の条件である。参考書は生体計測装置学でレポート作成等に利用して下さい。			